

経営比較分析表（令和元年度決算）

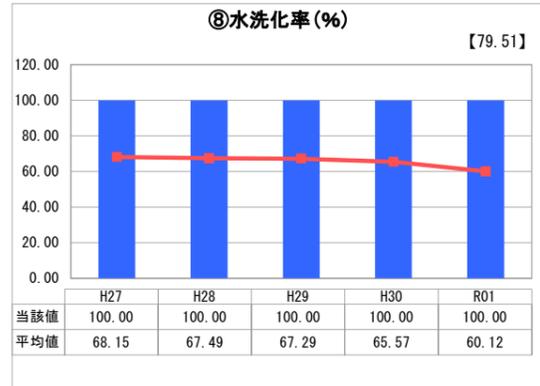
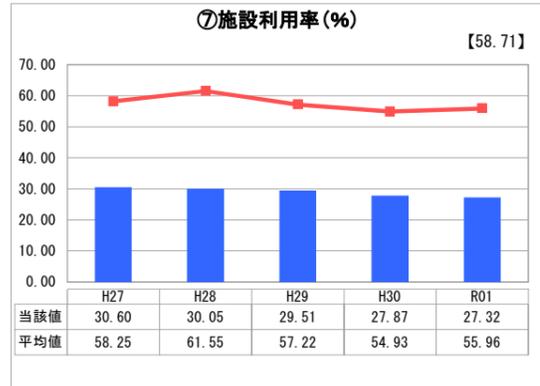
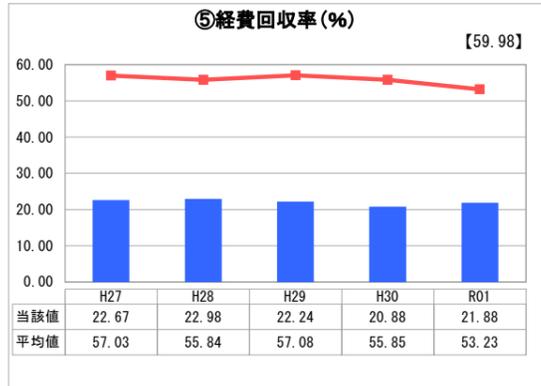
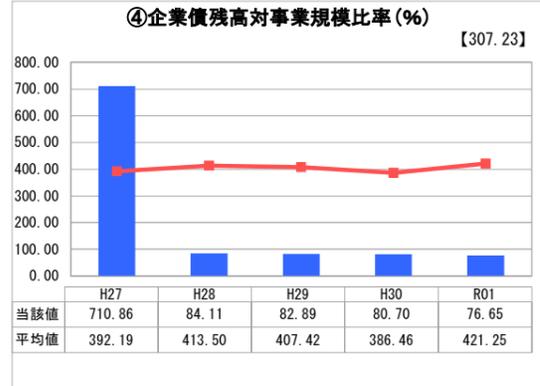
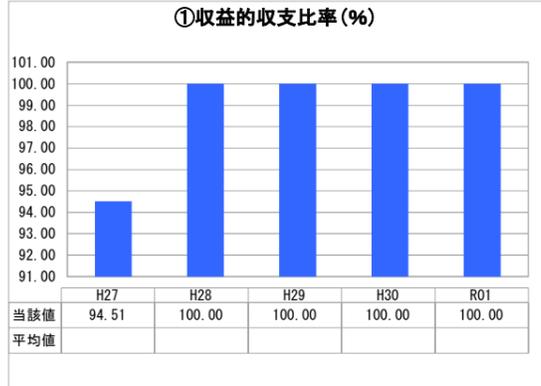
山口県 宇部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定地域生活排水処理	K3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.14	100.00	3,135

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
164,255	286.65	573.02
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
230	0.14	1,642.86

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は処理区域内の人口の減少により営業収益が僅かながら減少しているが、営業外収益である一般会計からの繰入金により、総費用等を賄えている。一般会計繰入金に依存している状態を少しでも解消するよう努力したい。

④企業債残高対事業規模比率は、平成28年度から分流式下水道に係る一般会計からの繰入金の算出基準が変更され、企業債残高に対して一般会計が負担する額の割合の増加に伴い低下した。令和元年度は企業債残高減少により、若干下がっている。

⑤経費回収率は、各費目の金額変動が少ないため、平成27年度から横ばいの状況が続いている。

⑥汚水処理原価は、処理区域内人口の減少により有収水量と汚水処理費が共に減少しており、前年とほぼ横ばいの状況である。

⑦施設利用率は、処理区域内人口が計画時より減少し有収水量が減っているため、低下している。

⑧水洗化率100%を保っている。

2. 老朽化の状況について

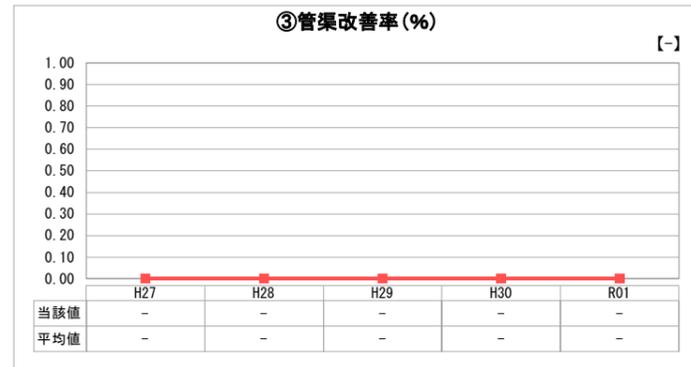
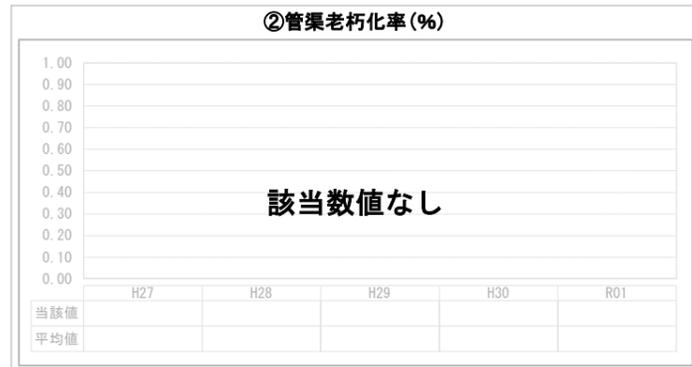
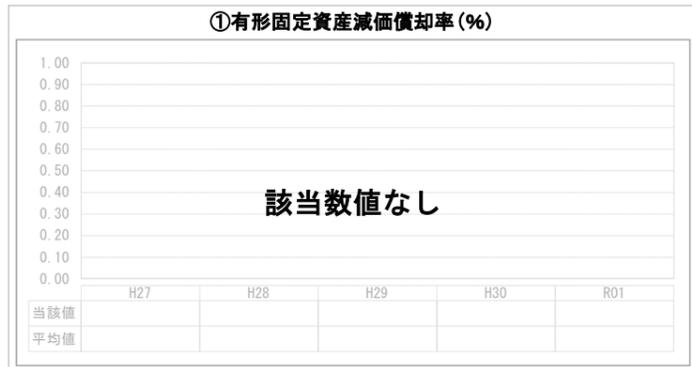
本市の特定地域生活排水処理施設は、平成17年度から平成21年度にかけ設置し事業は完了している。処理施設は適正に修繕対応し維持管理を行っている。なお、令和元年度は前年度と比較すると修繕に係る費用が減少した。

全体総括

本市と山陽小野田市の水道水源である小野湖の水質保全も目的とした事業であるため、収益でまかなえない費用は一般会計で賄っている。

人口減少に伴う使用料収入の減収が見込まれるため、経営の健全性を考慮し維持管理費の縮減や収納率向上による料金収入の増収になお一層努力していく。

2. 老朽化の状況



※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。